

令和6年度秋田県男女共同参画に関する県民意識調査結果（概要）

1 調査の目的

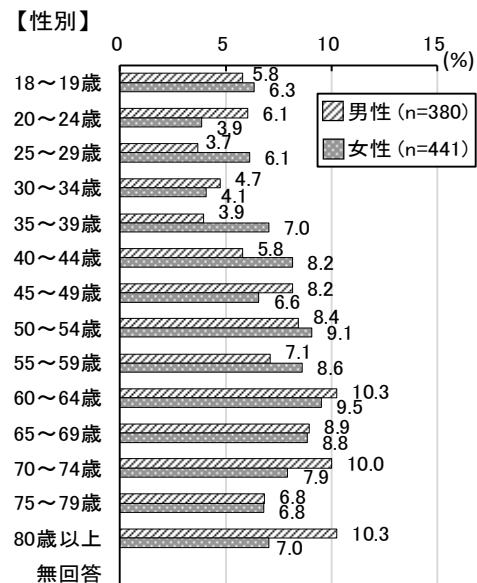
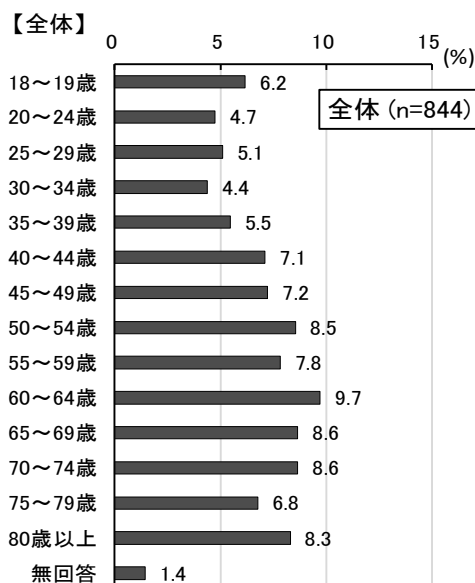
本県の男女共同参画社会に関する県民の意識と生活実態を把握し、今後の男女共同参画に係る施策立案等の基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女2,200人
- (2) 有効回答数 844件（男性380件、女性441件、その他・無回答23件）
回答率38.4%
- (3) 調査方法 アンケート方式
（調査票の郵送配布。回答は郵送とインターネットの併用）
- (4) 調査内容 男女共同参画に関する意識や取組、女性の活躍推進、職場環境、地域活動、DV（ドメスティックバイオレンス）、多様性のある社会
- (5) 調査期間 令和6年10月23日（水）～11月15日（金）

3 年齢別回答割合

年齢	全体		男性		女性	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
18～19歳	52	6.2%	22	5.8%	28	6.3%
20～24歳	40	4.7%	23	6.1%	17	3.9%
25～29歳	43	5.1%	14	3.7%	27	6.1%
30～34歳	37	4.4%	18	4.7%	18	4.1%
35～39歳	46	5.5%	15	3.9%	31	7.0%
40～44歳	60	7.1%	22	5.8%	36	8.2%
45～49歳	61	7.2%	31	8.2%	29	6.6%
50～54歳	72	8.5%	32	8.4%	40	9.1%
55～59歳	66	7.8%	27	7.1%	38	8.6%
60～64歳	82	9.7%	39	10.3%	42	9.5%
65～69歳	73	8.6%	34	8.9%	39	8.8%
70～74歳	73	8.6%	38	10.0%	35	7.9%
75～79歳	57	6.8%	26	6.8%	30	6.8%
80歳以上	70	8.3%	39	10.3%	31	7.0%
無回答	12	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
合計	844	100.0%	380	100.0%	441	100.0%

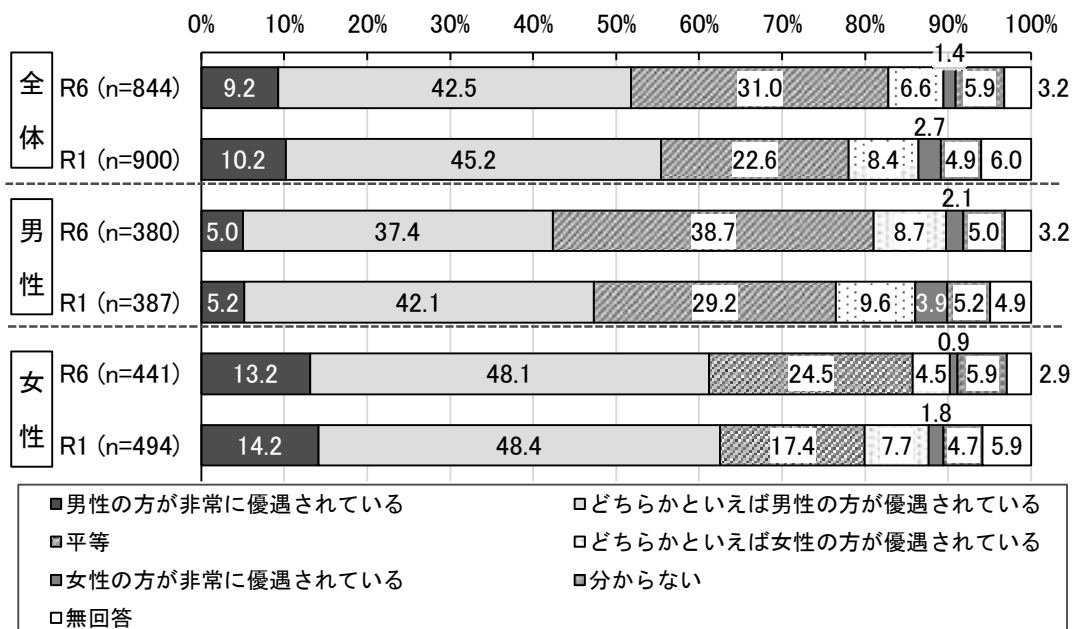


4 主な調査結果

(1) 男女平等の現状（「ア 家庭生活」、「イ 職場」）（報告書 13 ページ：問 1）

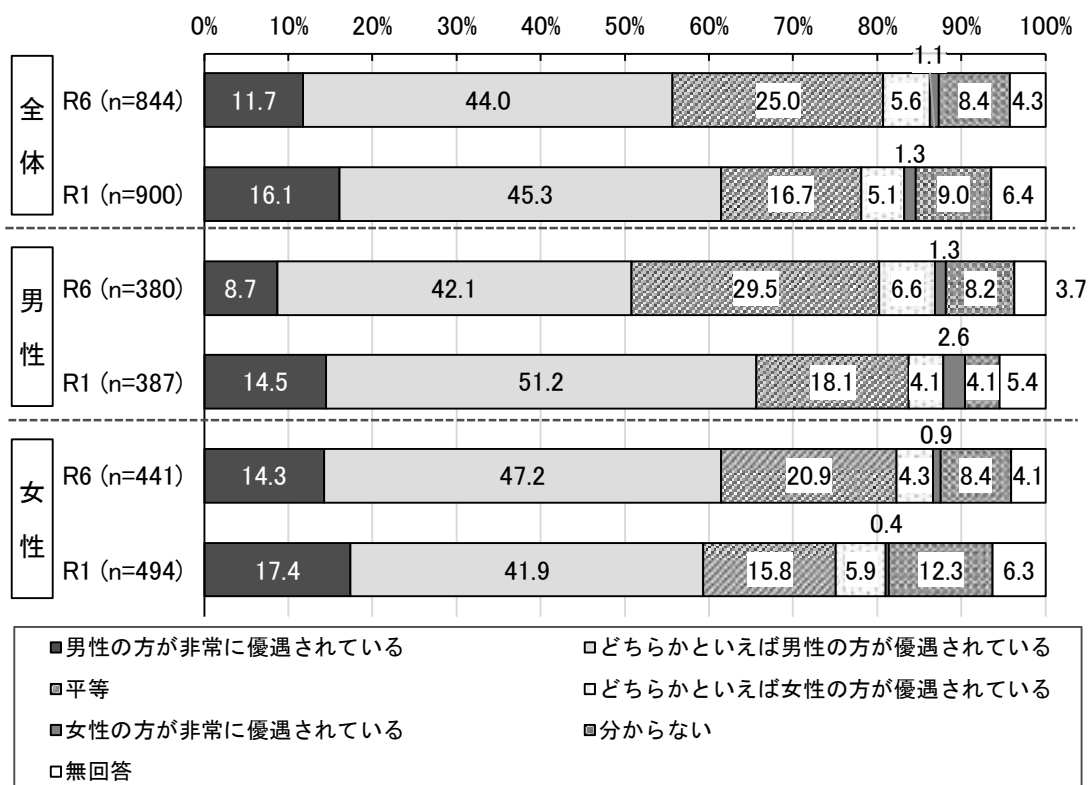
ア 家庭生活

全体では、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答（以下同じ。）」の割合は 51.7%となっている。また、男女別にみると、『男性の方が優遇されている』の割合は、女性の方が男性よりも 18.9 ポイント高くなっている。



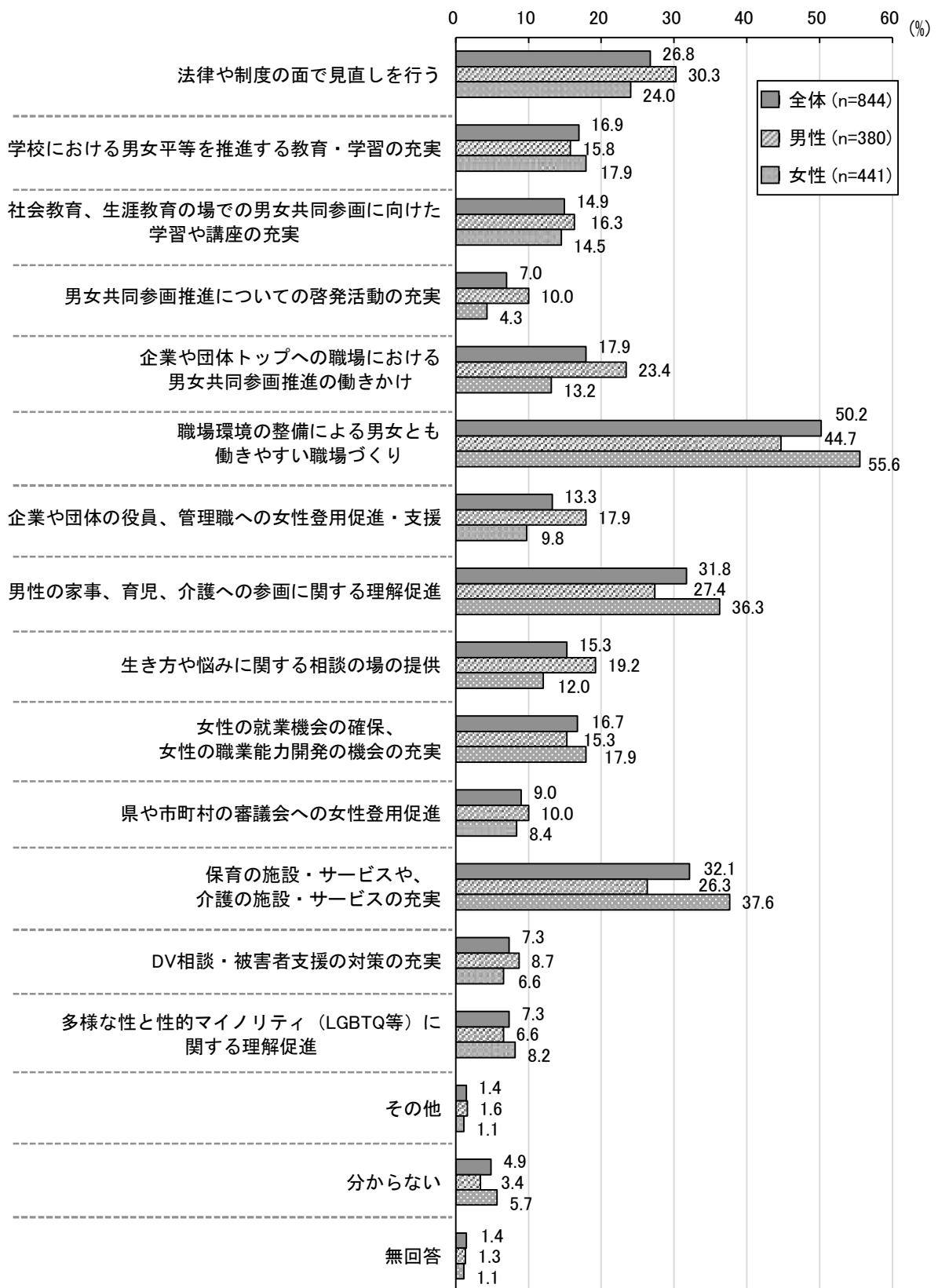
イ 職場

全体では、『男性の方が優遇されている』の割合は 55.7%となっている。また、男女別にみると、『男性の方が優遇されている』の割合は、女性の方が男性よりも 10.7 ポイント高くなっている。

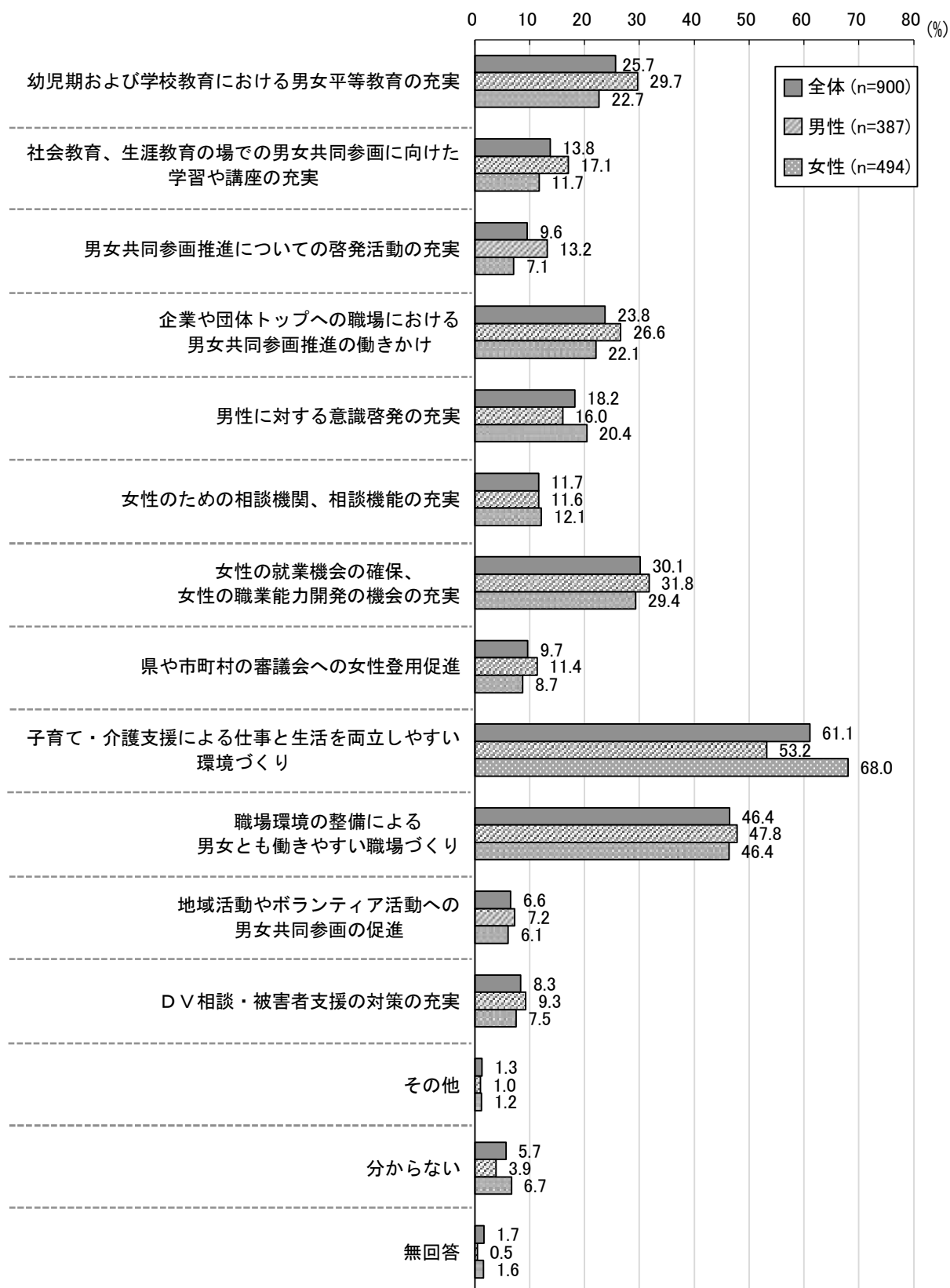


(2) 男女共同参画の推進に向け力を入れたらよいと思う施策（報告書 35 ページ：問3）

全体では、「職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり」の割合が最も高く、この割合は男女ともに第1位となっている。

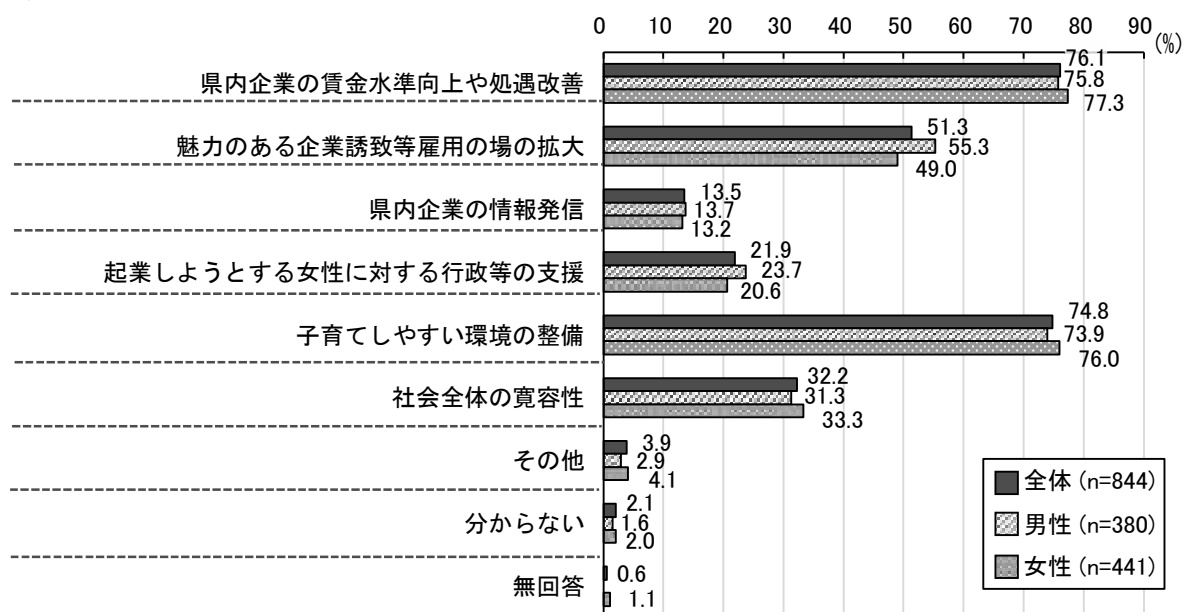


[参考] 前回(R1)調査結果

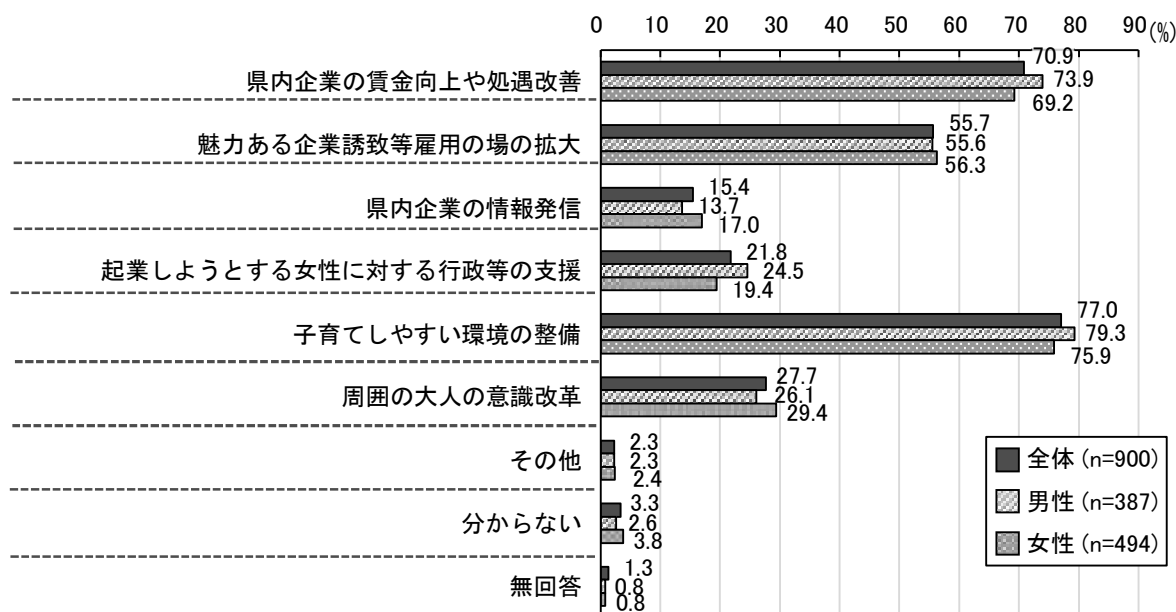


(3) 県内に女性が定着し、活躍するために必要なこと（報告書 46 ページ：問 8）

全体では、「県内企業の賃金向上や処遇改善」の割合が最も高く、この割合は男女ともに第 1 位となっている。

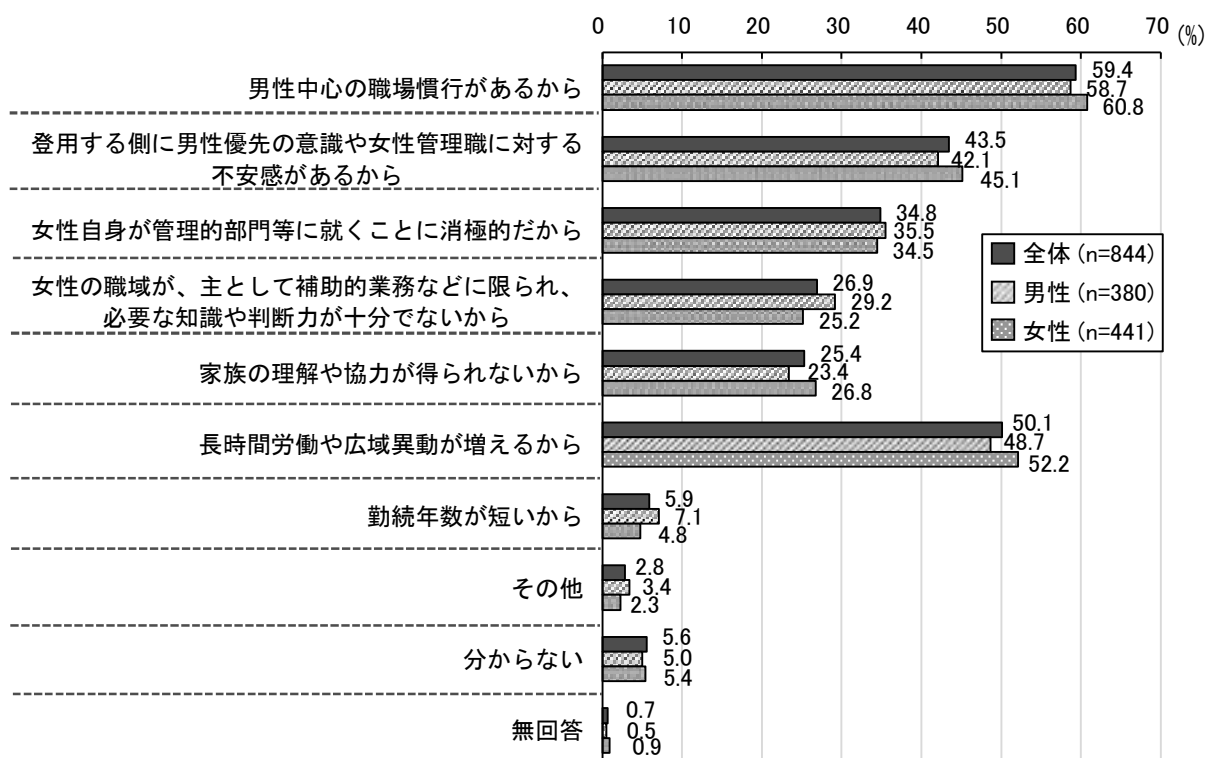


[参考] 前回(R1)調査結果

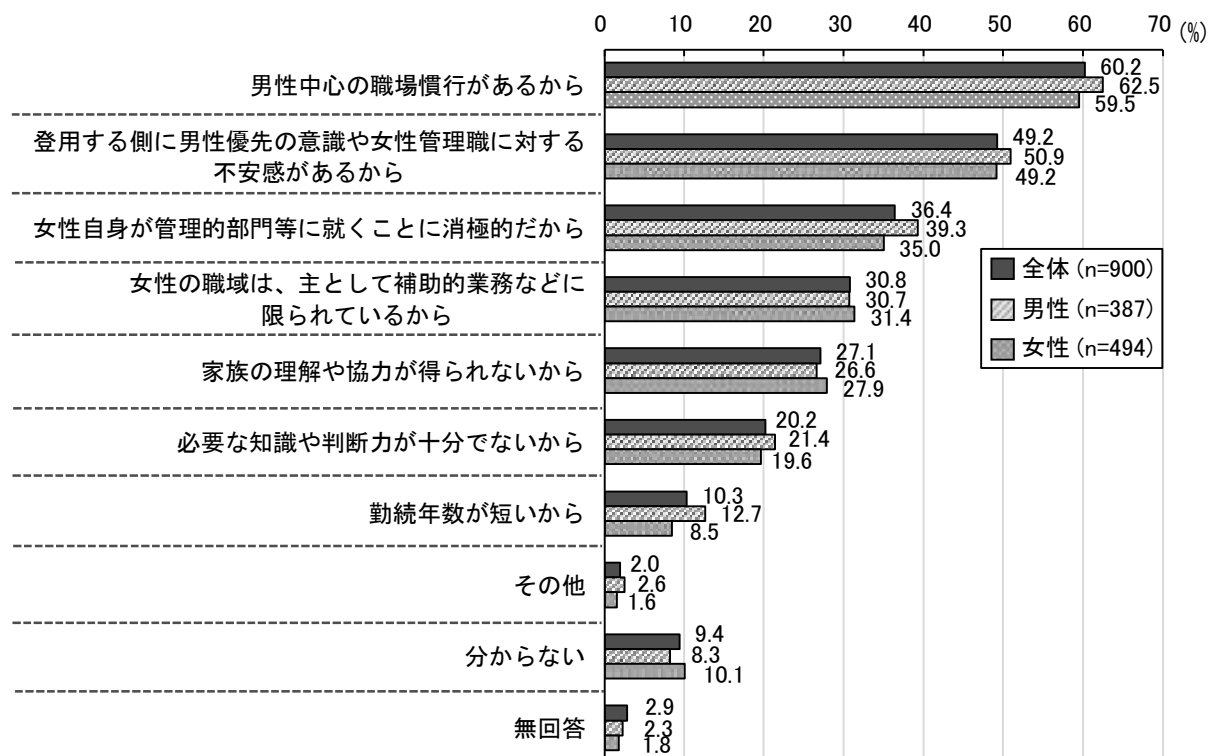


(4) 女性管理職が少ない理由（報告書 50 ページ：問 11）

全体では、「男性中心の職場慣行があるから」の割合が最も高く、この割合は男女ともに第 1 位となっている。

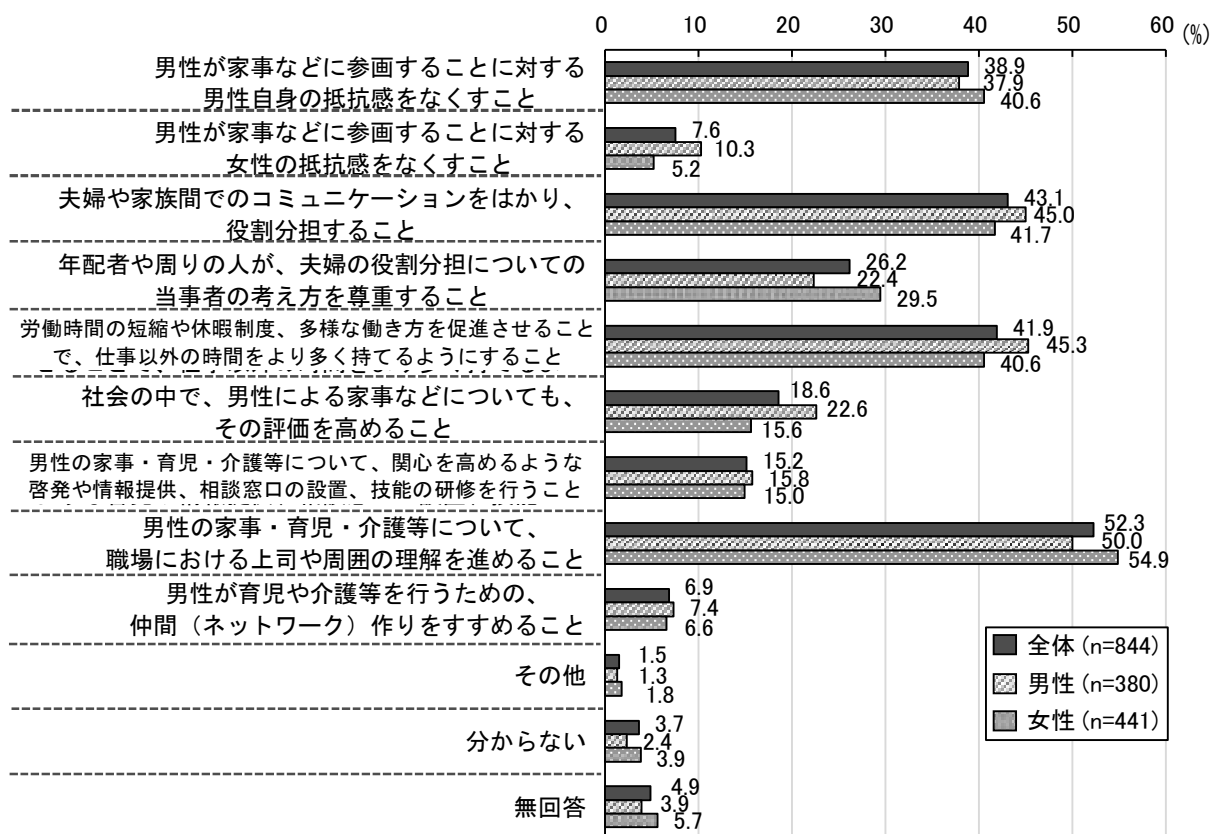


[参考] 前回(R1)調査結果

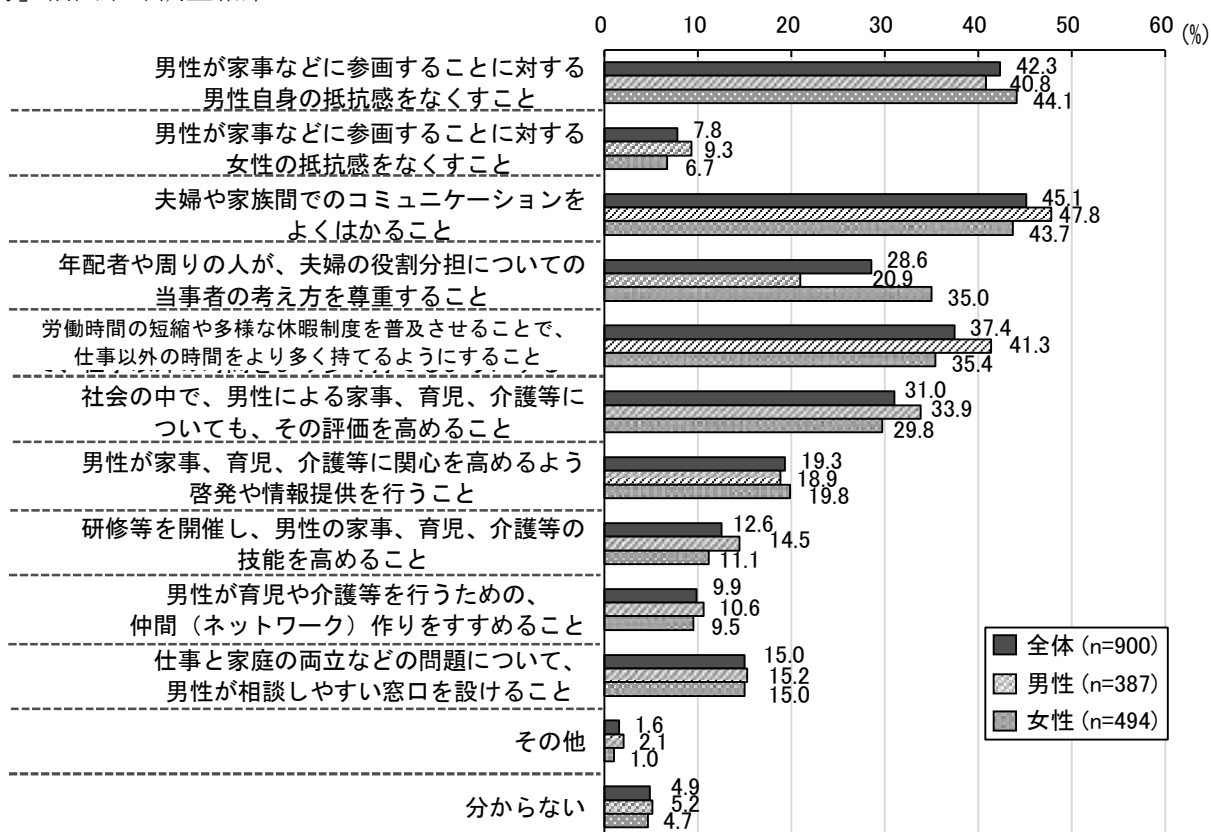


(5) 男性の家事等の参画を進めていくために必要なこと（報告書 59 ページ：問 15）

全体では、「男性の家事・育児・介護等について、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が最も高く、この割合は男女ともに第1位となっている。

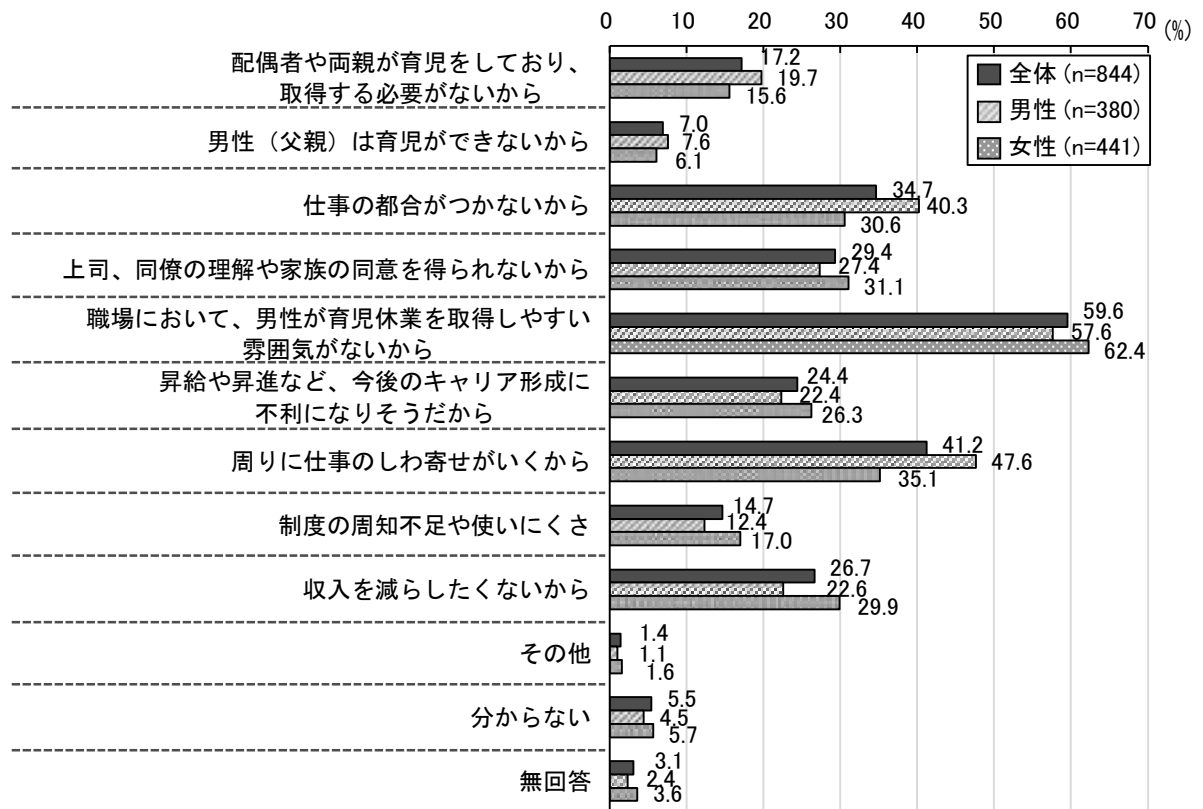


[参考] 前回(R1)調査結果

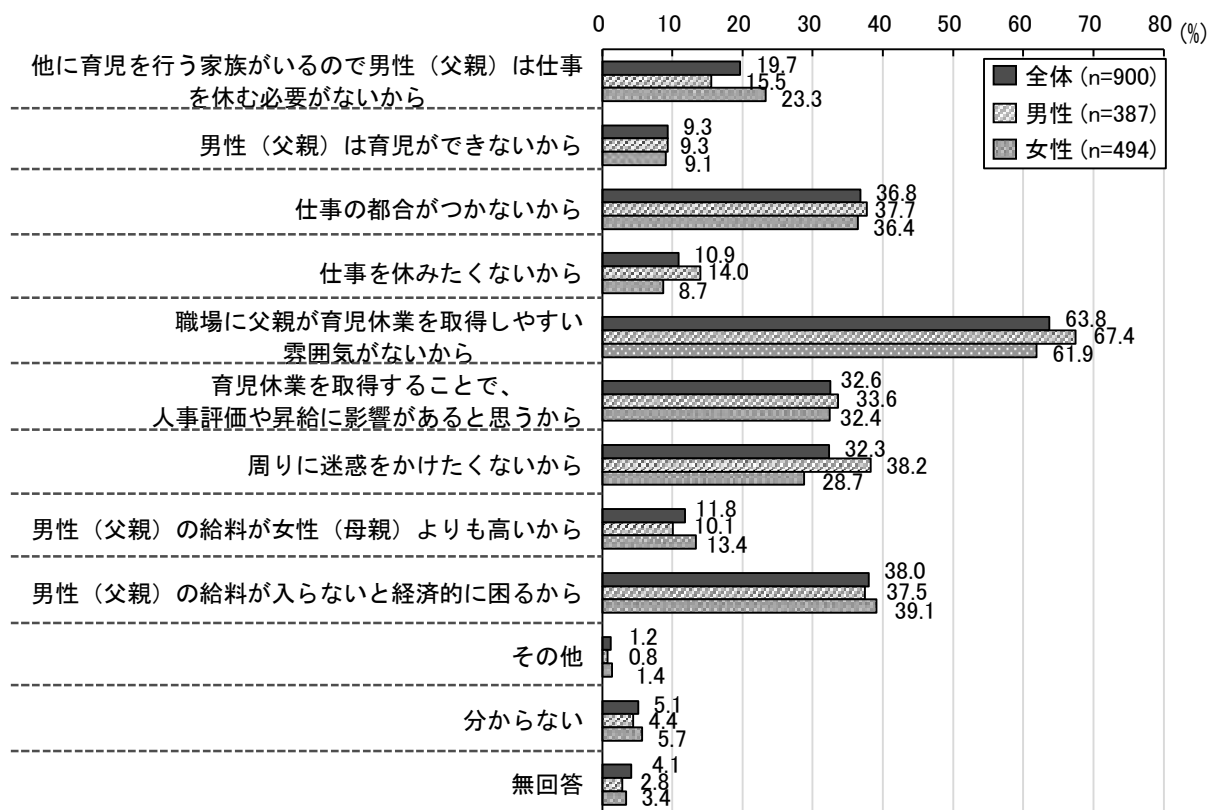


(6) 男性の育児休業取得が進まない理由（報告書 62 ページ：問 16）

全体では、「職場において、男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから」の割合が最も高く、この割合は男女ともに第1位となっている。



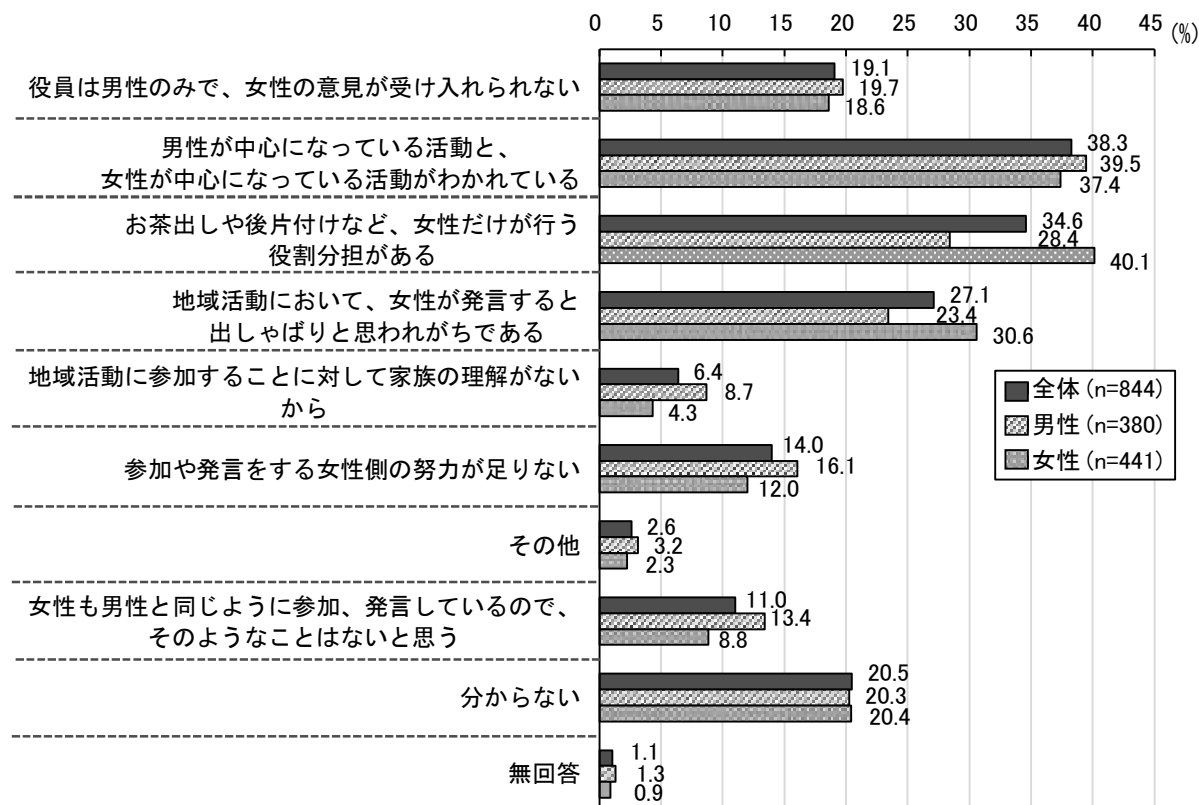
[参考] 前回 (R1) 調査結果



(7) 地域の集まりに女性が参画しにくい理由（報告書 68 ページ：問 19）

<令和 6 年度新規調査項目>

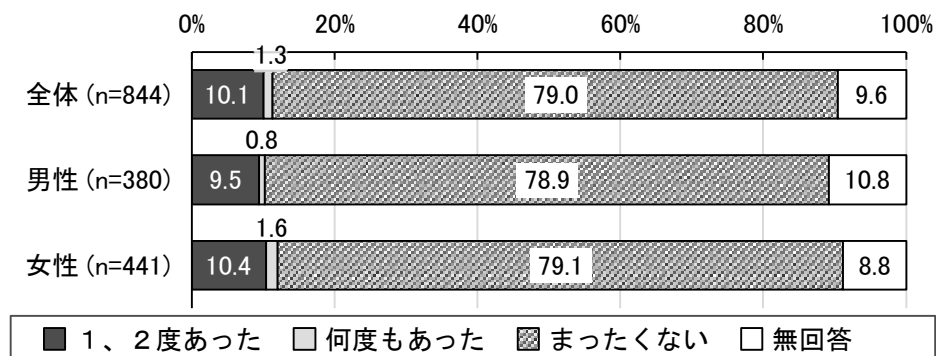
全体では、「男性が中心になっている活動と、女性が中心になっている活動がわかれている」の割合が最も高くなっている。また、男女別にみると、男性では「男性が中心になっている活動と、女性が中心になっている活動がわかれている」、女性では「お茶出しや後片づけなど、女性だけが行う役割分担がある」の割合がそれぞれ最も高くなっている。



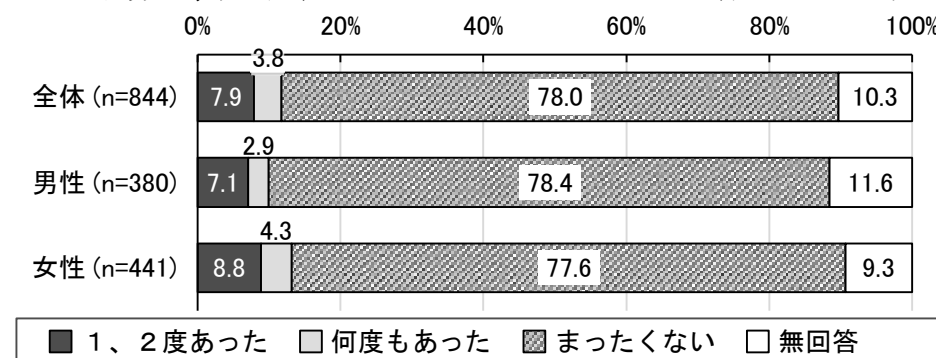
(8) DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害経験（報告書 77 ページ：問 21）

全体男女ともに、すべての項目において「まったくない」の割合が最も高くなっている。

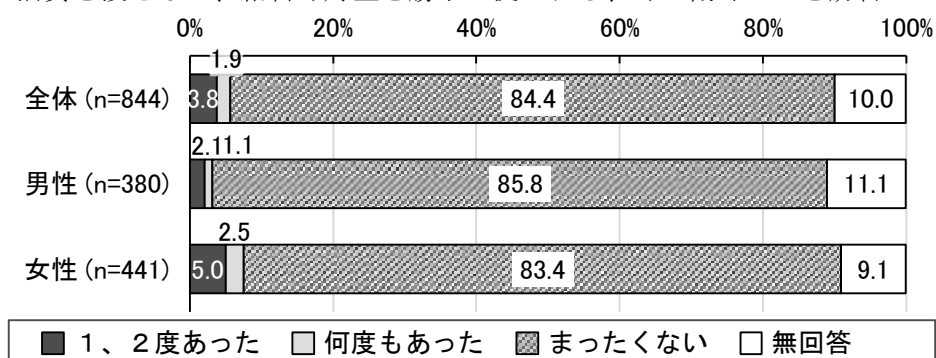
ア なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行



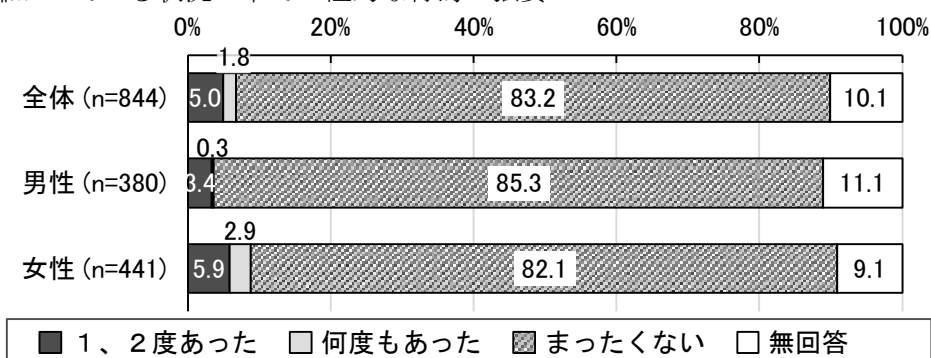
イ 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫



ウ 生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害



エ 嫌がっている状況の中での性的な行為の強要



令和6年度秋田県男女共同参画に関する県民意識調査報告書

(令和7年2月) 概要

秋田県あきた未来創造部 次世代・女性活躍支援課

T E L : 018-860-1555 F A X : 018-860-3895